（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立四谷第六小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	・学習スタンダードを徹底し、ICT を効果的に活用して基礎基本の定着・深い学びに向かう授業づくりを目指す。	中間評価	・どの学級、教科においても ICT を活用し、深い学びに向かう授業づくりを行った。	最終評価	・どの学級も ICT を活用して授業ができた。
環境作り		・ユニバーサルデザインを意識し、全ての子どもたちが学びに向かいやすい環境の工夫や個に応じた配慮や支援を行う。		・教室の前面環境を全学級統一し、ユニバーサルデザインを取り入れた学習環境を工夫した。		・ユニバーサルデザインを意識し、全ての子どもたちが学びに向かいやすい環境の工夫や個に応じた配慮や支援ができた。

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課　題（10 月）	改善のための取組（10 月）	最終評価（２月）
1	国語	学…漢字や平仮名、カタカナの学習では、文字の形の特徴を捉えることはできているが、テストになると忘れてしまって書けない児童が多い。 また、自分の考えを友達に説明する力が不十分である。	・文字の大まかな形の特徴は捉えられているものの、止め・はね・はらい等の細部までに気を配って字を書くことができていない。 ・自分の考えを整理して発言することができない。	・漢字に関しては、活用場面が分からずテストの問題に答えられない児童がいる。感想文を書かせる時などに、積極的に既習漢字を使わせるようにする。漢字の小テストなどで細かく定着状況を確認し、個別支援をする。 ・話型を手掛かりに、自分の気持ちを表現できるよう支援する。	・文字のとめ、はね、はらい等の正しい形の指導は繰り返し声掛けをしていったことや、保護者にも児童の宿題を添削してもらう際に注意してみてもらうよう呼び掛けていったことにより、改善されていった。 ・カタカナの形が崩れてしまう児童や、似ている文字（「ソ」と「ン」、「ツ」と「シ」等）に困惑する児童もいたので、個別の指導を続けた。 ・自分の考えや気持ちを整理して伝えられるよう、国語の話す・聞くの単元を中心に指導をした。コロナ禍であったため、従来のような形で言語活動を展開することができなかった。
	算数	学…基本的な計算はできる子が多い。しかし、繰り上がりのあるたし算の問題等の計算方法を細かい手順に分けて考えることや、手順を分かりやすく友達に説明する力に関してはまだ課題がある。 図形の領域に関しては、興味・関心が高く、どの児童も楽しみながら学習する姿が見られた。	・繰り上がりのあるたし算の計算仕組みを十分に理解できていない。また、答えを出すことはできているが、計算の過程を細かく理解できていない児童がいる。	・繰り上がりのたし算の仕組みを理解させるために、ブロック操作や図に表しながら、繰り返し計算問題を行う。 ・計算の手順を唱えながら問題に取り組ませる。	・計算の仕組みを理解させるために、ノート指導を重点的に行った。計算の理由や手順を、具体物操作をさせたり、図や言葉を用いたりして、説明する基礎・基本の指導を徹底した。 ・タブレット端末（オクリンク）を用いて自分の考えをまとめることが有効であったので、積極的にタブレット端末を用いて学習を進めた。特に、個別の支援を要する児童にはタブレット端末（主にオクリンク）を用いた学習は有効であった。ノートに書くことには抵抗があるが、タブレットでの学習になると意欲的、積極的に学習に臨める児童が多くいた。

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
2	国語	学…学習の様子やテストから、正しい書き順で書けていないことや、止め、はねが明確でないことが多いことが分かった。日頃の発言等から集中して話を聞いたり、適切に要点を捉えたりすることがやや苦手である様子が見られる。	・正しい書き順で書けていなかったり、止め・はね・はらいができていなかったりする。 ・要点を捉えて聞いたり、話したりする力がやや不足している。	・ベーシックタイムや家庭学習を含め、繰り返し漢字の復習に取り組み定着を図る。 ・例や話型を示しながら、発言をする機会を設ける。 ・デジタルドリルと活用し、漢字の正しい書き順を定着させる。	・テストで間違えた漢字の復習に、丁寧に取り組むことができている。漢字のミニテストを継続して漢字の定着を図る。 ・デジタルドリルや学習ノートを用いて、全体で書き順やポイントを確認することで、正しく書くことを意識して取り組んでいる。 ・漢字の定着度は高いが、日常的に活用できていない児童が多いので、日記等で既習漢字を使いこなせるように引き続き指導する。	・漢字テストを継続し、徐々に定着を図ることができた。言葉集めの学習を通して、活用の仕方を知り語彙が増えてきた。 ・日記の家庭学習等では、まだ積極的に既習漢字を使わない児童もいるので、継続した指導が必要である。 ・ノートを使った学習とデジタルドリルによる学習を併用することで、筆順確認や書き方練習などのねらいに沿った学習ができた。
	算数	学…宿題やベーシックタイムの様子から、繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算の計算では、繰り返し練習したこともあり、計算力が定着してきたことが分かる。文章題では、求差を求める問題で立式の誤りが見られる。	・文章題の立式を苦手とする児童がいる。 ・立式した際に数をなんとなく並べており、その根拠を説明できないことがある。	・ベーシックタイム等で繰り返し練習を行い、引き続き定着を図る。 ・授業中に立式した際に言葉の説明を書いて、根拠を意識させる。 ・デジタルドリルを活用し繰り返し練習に取り組ませる。ブロック操作等を見せ視覚的な理解を図る。	・文章問題は、問題文に線を引くことで正しく立式できるようになっている。 ・問題場面を図に整理することで理解が深まっている。例を示しながら、図に示すことが苦手な児童も取り組めるよう支援する。 ・立式や計算の仕方等を説明し合うことに慣れてきた。説明できない児童も友達の説明を聞くことで理解を深めている。継続して説明し合う時間を設けていく。	・文章問題については、繰り返し練習を行ったことによって、徐々に慣れてきたが、まだ不得意とする児童も多い。立式の際にテープ図をかくことが定着してきた。単純に目についた数を並べて立式している児童もいるので、立式の理由を説明することを今後も継続していく必要がある。 ・掛け算九九の定着は早く、家庭学習の習慣化が定着している様子が見られた。
3	国語	調…全体的には概ね良好ではあるが、「文章を書く」や「書くこと」の領域において全国平均を下回っている。時間内に自分の考えをまとめ、文章に起こすことに課題がある。また、「言葉の学習」にも課題が見られた。	・物語を読んだ感想や、自分が思ったこと・考えたことをノートに書き表すことに課題が見られる。 ・習った漢字を読んだり、正しく書いたりすることに課題が見られる。また、字形のバランスを考えて書くことを苦手としている。	・日記を書くことを家庭学習として取り組ませることで、書く機会を確保し、書くことへの抵抗感を減らしていく。 ・授業中、自分の思いや考えを書く時間を十分に確保するとともに、個別指導で文例を提示して、思いや考えを書きやすくする。 ・デジタルドリルを活用し、漢字の読み書きを繰り返し練習することで、基礎・基本の定着を図っていく。	・自分の考えを書くことへの抵抗感はなくなってきている。 ・時間を確保すれば思いや考えを書けるようになってきている。 ・漢字の定着率は高くない。デジタルドリルとプリント学習を並行して行うことで更なる定着を図っていく。 ・説明文は段落のつながりに気を付ける、物語文は、登場人物と自分を重ねて読む等の基本的な読み方を身に付けていくことができるよう指導する。	・漢字をプリントやデジタルドリルに繰り返し取り組むことで、学習内容の定着を図ることができた。時間を置いてデジタルドリルなどで復習するなど、継続して指導する必要がある。 ・毎日の家庭学習により、日記を書くことに対して抵抗感が減った児童が多く、表現力も付いてきた。自分の思いを素直に表現できる児童が多くなった。自分の意見や考えを書く指導を続けたことにより、短くとも自分の考えを書き表せるようになった。今後は、文章の量を意識して書かせることが必要になる。

	算数	調…全国平均とほぼ同程度で、概ね良好な状況である。特に力を入れてきたひき算に関しては、目標値全国平均ともに６ポイント以上上回っている。しかし「長さ・かさ」の測定領域は全国平均より低く、目標値にも達していない。	・加減計算について、筆算の仕方を身に付け、正しく計算することに課題が見られる児童がいる。 ・問題に対して、計算して答えを出すことは出来るものの、考え方をノートに書いたり、自分の考えを説明したりすることに課題が見られる。	・デジタルドリルやプリントを活用し、計算問題に取り組む機会を確保し、習熟を図っていく。 ・授業において、自分の考えを書く時間を確保する。分かりやすく書いているものを紹介することで、書き方を身に付けられるようにしていく。 ・授業中、筋道立てて話していくことを重点的に指導することで、自分の考えを説明する力を付けていく。	・デジタルドリルを活用して、計算問題への習熟は図ることができた。しかし、一部児童に関しては、復習の機会を増やしていき、さらなる習熟が必要である。 ・思考の文章化や単元の振り返りの時間を確保したことにより、分かりやすく伝える書き方が身に付き始めている。 ・自分の考えを相手に説明する機会を増やしていくことで、考えと理由を示しながら説明することができるようになってきている。	・加減法と乗法の筆算では、プリントを活用し、実際に自分で書いて計算を解く機会を確保したことによって、筆算の仕方を正しく身に付けることができた。 ・自分の考えを相手に説明する機会を確保したことによって、考えを分かりやすく伝えられる児童が多くなった。また、思考をノートに示す際に、よい表現を例に挙げることにより、表現の仕方が身に付いてきた。 ・今後は、場面を式や図に表したり、式から場面を考えたりする活動も積極的に取り入れる必要がある。
４	国語	調…全国平均を上回り、概ね良好である。一方で指定された長さで必要な情報を入れたり、段落ごとに内容を分けたりして文章を書くことに課題が見られた。	・文章を書く際に、適切に既習の漢字を用いたり、簡潔な文章に自分の考えを表したりすることに課題が見られる。 ・学習する漢字の量が多いので、確実に定着できるようにしていく。	・自分の考えを書く時間を確実に確保することで、書く機会を増やしていく。その際、書き方の例を示すことで取り組みやすくしていく。 ・定期的に漢字小テストを行い、確実に漢字の定着を図っていく。	・自分の考えを書くことに抵抗感は少なくなってきた。さらに説明文の要約の場面で、キーワードとなる言葉に着目させたり、筆者の考えを話し合ったりすることで、内容のまとまりを意識して書く指導につなげていく。 ・タブレット端末の活用により、正しい書き順や字のバランスを意識する児童が増えた、継続して指導していく。	・長い文章を要約する学習を適宜取り入れて行ったことで、文章から大事な情報を読み取ることができるようになってきた。 ・新出漢字については、デジタルドリルやワークシート、漢字小テストを繰り返し行ったことで、概ね定着を図ることができた。 ・文章を書くことへの抵抗感が少なくなってきた。文章に自分の考えを書く際には、論理的に組み立てを考えて構成したり、適切に既習の漢字を使ったり、主述関係を分かりやすく書き表したりすることができるようになってきた。
	算数	調…全国平均を上回り、概ね良好である。一方で円の半径とコンパスの使い方について理解に関して課題が見られた。また、あまりのあるわり算のたしかめ算の仕方の理解に関しても課題が見られた。	・図形に関する理解に課題が見られる。円の学習では、コンパスの操作に対して苦手意識をもっている。 ・計算ミスが多い。特に、かけ算の筆算では繰り上がりのある計算やかけ算九九が定着していない児童もおり、計算能力に課題が見られる。	・模様を描く問題等に取り組み、反復してコンパスを活用した円を描く機会を確保していく。 ・デジタルドリルを活用し、計算問題に取り組む機会を確保する。	・作図については、角度や長さを正確に測り、描く活動を繰り返し行っていく。 ・単元が変わると計算ミスが目立つようになるので、学習中の単元に関わらず、計算のデジタルドリルやプリントで復習する機会を設定していく。	・デジタルドリルやワークシート等で反復して計算問題に取り組んだことで、計算ミスが少なくなってきた。 ・作図についても、繰り返し描く活動を行ったことで、コンパスの操作に慣れ、苦手意識が軽減されてきた。 ・問題の場面を適切に線分図に表す活動については、引き続き繰り返し指導を続けていく。
５	国語	調正答率は全体的に、全国平均を大きく上回っている。おおむねどの領域も区、全国の平均を上回っているが、言語文化に関する領域に課題が見られた。 調内容別に分析をすると、漢字の読み書きは高い正答率であった。その反面、文章を書くことの正答率は、他に比べると低い。	・自分が思ったことや考えたことを、発表したり文章で表現したりすることを苦手としている。 ・新出漢字の定着率は高いが、丁寧に書くことに課題がある。 ・場面や相手に応じて、内容を考えたり、話し方を変えたりすることが難しい。	・文章構成についての指導を行う。苦手な児童には、モデルを示し、書くことへの抵抗感を減らしていく。また、書いた文章を読み合う活動を取り入れることで、書きたいという意欲を高めていく。 ・デジタルドリルを活用し、自分の書き順と正しい書き順を認識させる。 ・５W1H を中心に質問の仕方やあいづちの打ち方などを教えることで、聞き手を育てていく。	・誰に向けて、何のために文章を書くのかという目的意識をもたせて「書くこと」の指導を行った。書いた作品を互いに読み合い、感想を伝え合うことで、少しずつ書きたいという意欲が高まってきた。 ・新出漢字はデジタルドリルを見ながら書き写す書き取りプリントを用意した。また、単元ごとに漢字の小テストを行うことで、定着率を高めた。 ・授業の中で、ペア学習・グループ学習を取り入れることで、対話する機会を増やした。また、相手の意見に対して質問をする練習をすることで、話す力も身に付いてきている。	・作文や意見文、おすすめの本を紹介する文などを書いた際には、互いに読み合いを行った。特に、自分の作品を写真に撮り、オクリンク等で共有することで効率的に読み合いを行うことができた。友達のコメントからやりがいを見い出す児童が増えた。 ・新出漢字をできるだけ早く指導し、繰り返し復習をすることで、年度始めよりも漢字の定着率が上がった。しかし、漢字を苦手としている児童への個別対応が今後も必要である。 ・コロナ禍ということもあり、交流活動を十分に行うことができなかった。しかし、オクリンクやムーブノートを活用することで、相手の意見に対して自分の意見をもつことはできるようになってきている。
	算数	調正答率は全て、全国平均を大きく上回っている。「変化と関係」の領域は特に正答率が高かった。特に、「角の大きさ」「簡単な場合についての割合」の正答率が高かった。 学全国平均を下回ったものはないが、普段の学習の様子を見ていると「垂直・平行と四角形」理解が不十分な児童がいる。	・「垂直・平行と四角形」では、知識としては理解しているものの作図をすることが苦手な児童が多く、課題が見られる。 ・答えを求めるために多角的な視点で考えることを苦手としている児童が多く、正答率が低い。 ・自分の考えをノートに整理したり、分かりやすく相手に伝えたりすることが苦手な児童もいる。	・プリントやデジタルドリル等で作図をする機会を設ける。 ・問題文の意図を正しく理解させたり、考えの幅を広げたりするように思考の時間を十分にとる。 ・授業中に言語活動を多く取り入れ、自分の考えを表現できるようにしていき、表現力を身に付けさせる。	・「合同な図形」の学習では、教科書の問題だけでなく、プリントを用意し、補充問題として作図を行った。 ・学習ノートに自分の考えを書く時間を多く設け、一つだけでなく複数の考えを書くように指導した。既習事項を生かして、考えを書く児童が増えた。 ・友達同士で自分の考えを伝え合う機会を多く設けたことで、伝えることで自分の考えを整理できる児童が増えた。	・ドリルパークやワークシートを活用し反復したことで、計算力や基礎的な部分の定着を図ることができた。 ・問題文の意図を理解し立式したり、さまざまな視点をもちノートに自分の考えを書いたりすることが苦手な児童が多い。多くの考えが出るように児童同士の考えを共有することを大切に指導していく。 ・課題であった作図では、プリントを繰り返し行ったことで正確に書く意識が身についてきている。

6	国語	調漢字の読みは正答率が９割を超えており、目標値を大幅に超えていた。説明文の内容の読み取りも目標値を大きく超えていた。「書くこと」の領域は正答率が低く、目標値を大幅に下回っていた。特に、情報と情報の関係について理解し、自分の考えをまとめて書くことや、指定された長さで文章を書くことに課題が見られた。また、段落の役割について理解し、２段落構成で文章を書くことも難しかった。	・6年生になり漢字の難易度が上がったので確実に定着できるようにしていく。 ・「書くこと」への抵抗が大きい部分もあるので、児童の苦手意識を取り除いていく。 ・自分の考えを明確にしたり、指定の文字数で文章を書いたりする機会を増やしていく。	・漢字ノートとデジタルドリルを活用する。定期的に小テストを実施し、90点以上を目標に個に応じた課題の出し方をしていく。 ・定期的に書く機会を設けていく。互いに読み合う場面も設定し、書くことへの充実感や読み手を意識して自分の考えを述べられるようにする。 ・段落のつくり方など、基本的な作文の書き方を指導する時間を設ける。	・小テストは90点以上を目指し、個に応じて学習するよう指導した。下巻に入り漢字プリントを使用するようになった。プリントとデジタルドリルのバランスのよい活用方法を考えながら漢字の定着をさせていく。書くだけでなく、言葉の意味やことわざを関連させて学習させていく。 ・「書くこと」については、達成感を高めたり、読み合いで満足感を得たりして抵抗感をなくしてきた。 ・自分の考えは明確に書けるようになってきた。	・漢字プリントを日々行った。漢字の読み書きだけでなく、書き順や熟語調べ、例文作り等を通して一字一字丁寧に覚えられた。しかし、期間を開けて漢字テストを行うと、定着率には課題が残る。 ・「書くこと」の経験を積むことで抵抗感は小さくなった。論説文や意見文を書ける児童が増えた。 ・自分の考えだけでなく、人の考えとの相違点も考えられるようになった。
	算数	調計算領域は全国平均を上回っており、良好であるといえる。特に小数のかけ算、わり算では、目標値を大きく上回っており、計算ドリルやオンライン教材での取組が成果として出たと思われる。課題としては、最小公倍数、最大公約数を適用して問題を解くことがあげられる。もう一度、最小公倍数、最大公約数の求め方やそれらの意味を復習する必要がある。 学図形領域において正確さを高めると良い。	・前学年での学習を忘れている場合もあるので、レディネステストで定着の確認を行う。 ・授業で学んだことを毎時間、確実に積み重ねていくことで基礎学力の定着を図る。 ・基礎が定着している児童も活用する力が必要である。発展的に考えられると良い。	・新単元導入前に、前学年の復習を課題として与え、想起させる。 ・授業の導入で前時に学習したことを想起させる。 ・デジタルドリルで基礎・基本を定着させるとともに、発展問題も配信して、個に応じた課題を解くことができるようにしていく。	・単元導入時や毎時間の授業の導入で復習をしっかりと行い、本時の内容でつまずくことがないように指導した。 ・教科書の問題だけでなく、ドリルパークの活用や補充のプリントで基礎基本の定着を図るなど、個に応じた指導を行った。 ・数直線や線分図などを使い、自分の考えを説明することができる児童が増えてきた。	・本時で活用する公式や考え方など、導入段階で確認し、スムーズに問題に取り組むことができた。時間が空いてしまうと、解き方を忘れてしまい、定着に課題が見られた。 ・ドリルパークを活用し、全学年の復習や基礎基本の定着を図った。しかし、児童間で取り組み自体に差があり、定着にも課題が見られた。 ・数直線や図を活用し、順序だてて説明できるようになった。
音楽	学 興味・関心をもって学習に取り組む児童が多い。歌唱は様々な制約のある中、発達段階に応じて無理のない自然な発声で歌える児童が大半である。特に器楽演奏への意欲が高く、音を合わせたり聴き合ったりする力を付けてきている。	・音楽表現への思いや意図をもつことや、その思いや意図を表現に表す技能が必要である	・楽曲に取り組むときに、どう感じたか、どう演奏したいかという自分の思いを整理したり、発言したりし、友達の考えも聞いて共有していく活動を積み重ねていく	・タブレット端末を使用して、鑑賞の授業で聴き取ったことと感じ取ったことを整理して記入したり、音楽づくりでつくった旋律やリズムを全体で共有したりしている。	・タブレット端末を利用して、つくった音楽や自分の演奏を振り返ることができた。今後は、演奏できる技能を高めるだけでなく、曲の分析をしたり、どのように演奏したいか考えたりする時間を確保し、共有する。
図工	学 興味や意欲をもって活動する児童が多く、他者の表現を素直に感動することができる。知識や技能を習得することにも意欲がある。	・自分でこれが良いと自己決定することができず、模倣や技術習得の段階で留まってしまい、応用や深めていくことが課題である。	・何度も試し、作れる環境を作り、模倣をファーストステップとして、ステップアップする道筋を示していく。	・環境を整えることで、模倣から自分のやりたいことを見つけられる児童が増えてきた。今後は、児童同士の関わり合いから高め合っていけるようにしたい。	・年間を通して何度も試せる環境があることで、模倣から自分の表現を見つける段階から、少しずつ自分のオリジナリティを追究するようになってきた。 ・タブレット端末などを使って児童同士で作品を見せ合ったり、アドバイスを伝える活動を増やしたりしていくことがが今後の課題だと考える。
特支	まなびの教室利用児童の実態を的確に把握し、低学年は特性に応じたベースアップを中心に、中学年、高学年は学年の学習や生活に適応しやすい指導を行う。また在籍学級での合理的配慮と指導の方針を各学級担任とともに考える	・ＳＳＴを通して、言葉で伝えることができる児童が多くいる中、言葉で上手に説明できない児童もいる。自分の言葉でいかに説明できるかが今後の課題である。	・説明する練習の機会を多く設け、自信をもって説明できる経験をさせる。また、成功体験を積み、自己肯定感を高めさせていく。	・児童同士、あるいは教員との話し合いの機会を増やしていく中で、児童が自発的に話をすることが増えてきた。自己肯定感が低かった児童も、徐々に自分のよさを見付け、自信をもつことができるようになってきた。	・成果として、ＳＳＴを通して、状況理解や人とのコミュニケーションを理解できるようになった児童が多増えた。課題として、在籍学級へのフィードバックの機会が少なかったので、来年度は、より担任の先生方との連携を深め、児童にとってよりよい方法を考えていく。

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況　　※分量は２ページ以上となってもよい。